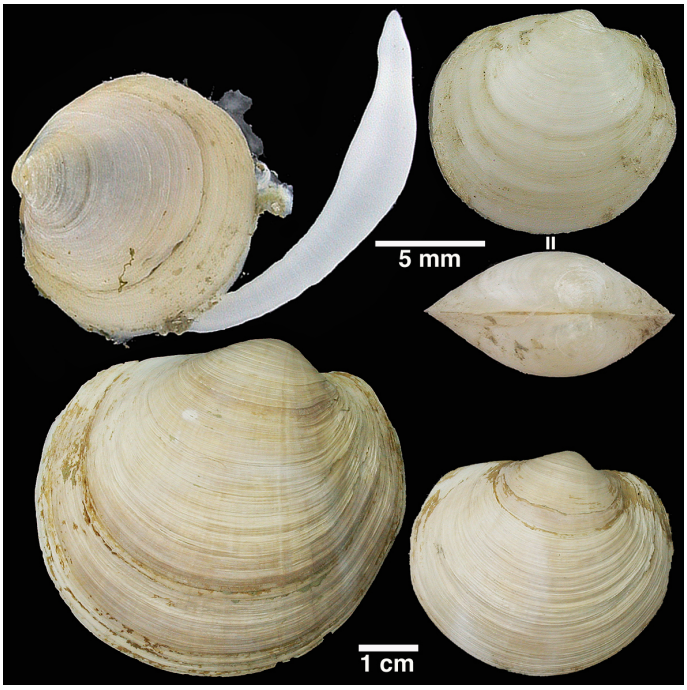
イセシラガイ　*Pegophysema bialata* (Pilsbry)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の泥底に深く潜って生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も知多湾、三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖では死殻が少数採集されるが、長い期間生貝の採集記録がなかった（中山,1980：木村,1996：木村,2000）。2008年に名古屋港沖から生貝が採集された（図１左上；木村, 2010）。その後、知多半島沖で軟体の入った死亡個体が記録されている（佐藤・他, 2019）が、生貝は採集されていない。



名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深 5-15 m), 2008 年 10 月 9 日, 木村昭一採集

【形　態】

殻長約 6 cm をこえる、両殻共によく膨れ球形に近い。殻は薄く脆い。殻は黄白色であるが、生きている時や新鮮な死殻には茶褐色の薄い殻皮がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

2008 年に名古屋港で生貝が確認されて以降、生息が確認できない。死殻も稀である。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アンダマン海、インド、国内では北海道南部～九州に分布する（山下, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

レッドデータブックなごや 2010（木村, 2010）では、本種と正しく同定された名古屋港沖産の生貝標本が図示されていたが、レッドデータブックなごや 2015（木村 加筆 川瀬, 2015）では他府県産の標本に差し替えられている。その地で採集された貝類の画像はレッドデータブックの重要な資料（データ）の一つなので、他産地の標本はなるべく使用しないことが望ましい。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3–19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾･三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18–20. 名古屋貝類談話会.
木村昭一, 2010. イセシラガイ, p. 195. in：レッドデータブックなごや 2010（2004 年版補遺）, 316pp. 名古屋市環境局.
木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. イセシラガイ, p. 408. in：レッドデータブックなごや 2015　動物編, 503pp.名古屋市環境局.
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, (6): 10–12. 名古屋貝類談話会.
佐藤大義・浅田　要・永井　僚, 2019. 南知多町内海海岸（伊勢湾）の貝類相. かきつばた,(44): 20–30.
山下博由, 2012. イセシラガイ, p. 116. in：日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

（木村昭一）